

令和4年度 学校評価

本年度の重点目標		<p>○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善</p> <p>○保護者や地域との連携に基づく教育の充実</p> <p>○地域のセンター的機能の充実</p>	
項目担当	重点目標	具体的方策	留意事項
総務	<ul style="list-style-type: none"> 教職員駐車方法の明確化と駐車場の整備 校内掲示板の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 年度始めに駐車方法のプリントを掲示し周知する。 定期的に全体又は個別に駐車の方法について説明する。 P T Aとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新転任者には特に時間を設けて説明し周知できるようにする。 移動時間の表示、放送を確実に行う。 正規駐車場を優先に、線が消えかかっていないかを確認し引き直すようにする。 教頭を通じて、P T Aと連携を図り活動の補助を行う。
教務	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間の変更に伴う日課表(校時)及び教育課程の検討 新学習指導要領を基にした指導と評価の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> 45分授業の実施に伴い、実践を基に課題を整理し、改善を進める。 自立活動の目標を念頭に、個別の指導計画の各教科・領域等の目標を設定する。 学習指導要領の全面实施に伴い、三観点評価の充実を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間が延長されたことにより、より充実した授業展開ができるような教育課程の編成を目指す。 個別の指導計画の様式を一部変更し、自立活動の目標が基となっていることを明確にし、指導、評価につなげる。 記載例を充実させ、評価の方法を周知できるようにする。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 安全な通学環境の整備 防災、防犯体制の充実 いじめ、不登校の防止 	<ul style="list-style-type: none"> スクールバス12コースの安全管理、運行の適正化に努める。 交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 防災、防犯体制を周知し、共通理解、意識向上を図る。 児童生徒の状況について教職員間で共通理解を図り、組織で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題点について、速やかに対応をする。 添乗教職員との連携を密に取る。 代替添乗への引継ぎを確実にを行う。 自転車安全利用モデル校として一宮警察署との連携を進める。 各種訓練の反省を生かしながらマニュアル等の見直しを行う。 いじめ防止基本方針を周知する。 情報収集に努め、年3回または随時のいじめ不登校対策委員会を実施する。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 卒業後の生活を見据えた地域との連携と充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路デイズの周知や内容の充実、ニーズに応じた進路情報の提供方法の工夫等を通して、保護者の進路指導に対する意識を高める。 教職員に対しての本校進路指導の流れの周知、ビジネスマナーの確認等の機会を設ける。 他分掌と連携し、早期から児童生徒の抱える課題を関係諸機関と情報共有し、地域の支援体制を整える。 雇用予定のある企業を積極的に開拓し、生徒に合った職域の確保をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 早期から進路指導全般に対する見通しがもてるよう、部や進路希望に沿った最新の進路情報の提供や、内容の精選に努める。 児童生徒が見やすい、教職員が活用しやすい進路情報の提示をし、新着情報を充実させる。 市町の福祉課や、関係諸機関との連携を密に行う。 対象生徒に対して的を絞った開拓、幅広い仕事内容の提案ができるよう、具体的な目的を提示する。

保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康づくりの推進 ・食物アレルギー対策の強化 ・安全環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や運動に関する指導を充実させ、望ましい生活習慣を意識させる。 ・担任、養護教諭、保健体育部、学校栄養職員による指導体制の整備を行う。 ・職員管理場所の清掃の際に安全点検も兼ねて清掃を実施し、きれいな学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭、担任、家庭と連携して生活習慣の改善につなげる。 ・保護者、主治医と連携し、個々の児童生徒の状況に応じた対策を確実に行う。 ・清掃時間を確保して、日ごろから清掃できるようする。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修の充実を図る。 ・新しいテーマの全校研究を円滑に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートなどを通して教職員のニーズに応え、教職員の積極的、意欲的な参加を促すことができるような研修とする。 ・ICT 機器活用に関する研究を進め、児童生徒が主体的な学びに向かうことができる授業や教材作りについて考えを深められるようにする。
視聴覚	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の有効利用の推進 ・感染予防に努めながらの図書室運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室や視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・破損した蔵書の補修を行う。 ・新しい図書を購入し、児童生徒の指導に役立つ図書を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使いやすい機器を調査し、購入計画を立てる。 ・計画的に蔵書の確認をして、新規図書購入を進める。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上 ・情報モラル教育の充実 ・GIGA スクール構想による ICT の活用のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用タブレットパソコン等の利用について、有効活用やトラブル等への日常的なサポートを行う。 ・担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして、情報モラル教育を進めていく。 ・児童生徒の一人1台タブレット端末の利用環境や利用規定を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ意識をより高めるために、定期的に、情報提供や注意喚起を行う。 ・情報部職員が、自己研さんに努める ・他分掌等と協力しながら、児童生徒の一人1台タブレット端末の利用を進めていく。
教育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援の充実 ・センター的機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけで解決が難しい問題に対して、チームで解決を図れるような体制を整える。 ・地域の小・中学校の保護者や教員を対象に、たんぼぼ相談や巡回相談、研修会等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係教職員や校外の専門機関と連携して進めていく。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの利用を促し、専門的な支援を受けられるようにする。 ・「支援の手引き」を活用する。 ・ケース検討を重ねることで、相談担当者のスキルアップを目指す。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動に関する情報の収集と発信 ・学習指導支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高め、保護者への理解と協力を求める。 ・自立活動の教材・教具を研究、整理し、授業等で有効活用できるよう紹介する。 ・流れ図・個別の年間指導計画の作成手順を共通理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板や職員・保護者向けの通信を活用し、情報を発信する。 ・アンケートを基に自立活動勉強会「じかつ☆ラボ」を計画し、感染症対策をしながら実施できるようにする。 ・教材・教具を定期的に点検、補修、開発し、授業等で有効活用できるようにする。 ・現職研修や「じかつ☆マニュアル」を活用し、自立活動の考え方や指導について共通理解できるようにする。

小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 ・家庭と連携した安全で安心な支援体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階を自立活動のチェックリスト等を活用して捉え、個々の指導計画を基に、学校生活全般の中で指導を行う。 ・毎日の健康観察、目を離さない行動観察を継続し、体調不良やけが等の家庭への確実な情報提供や情報収集を図り、安全な支援体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容を部会、学年会、ケース会等で振り返りや共有をすることで、指導方法を検証しながら、様々な指導方法を確立していく。 ・感染症予防には最大限の注意を払う。 ・安全な学習環境整備を図る。 ・職員間の報告・連絡・相談を徹底する。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を育成し及び社会生活を営む上での基礎的な能力の向上 ・生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と思える授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ち等の育成を家庭と連携を密に図りながら、学校生活全般を通して指導する。 ・生徒の実態や障害の特性に合った題材や単元を考えたり、教材・教具の工夫や環境整備をしたりすることで生徒自身が課題を理解し、自分から取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を十分に行い、体験的な活動を継続的に取り入れ、授業の中で一人一人が「かがやける場面」を設定し、自己有用感や自己肯定感を高め、主体的に活動できるようにする。 ・生徒自身が扱いやすく、また、「やってみたい」と思えるような教材・教具の開発に努める。 ・日々の連絡帳でのやり取りや懇談会等を通して情報の共有を図りながら家庭を学校の両方で支援できるようにする。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加を促す力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点を踏まえて、生徒一人一人の適性に合った支援を行う。 ・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会生活を営む上で必要な力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実態把握に努め、授業や学校生活全般をとおして障害特性や自立活動の目標に沿った段階的・継続的な支援を進める。 ・集団生活の中で、挨拶や身だしなみなど社会生活を送る上で必要となる基礎的な力の定着を図るとともに、自己の役割や責任を果たそうとする気持ちを育て、好ましい人間関係を構築できる力を育成する。 ・ICT機器を有効に活用して学習への興味・関心を高めたり、自己選択・自己決定をする機会を多く設定したりすることで、主体的に生きる力の基礎を育成する。
学校関係者評価を実施する主な項目		<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔のある安全・安心な学校づくり ・12年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進 ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組 	